

## V. 特記事項

### 1. 地域への知の還元

朝日大学では、開かれた大学づくり、地域における「知の拠点」の一環として、社会人を対象とした学びの機会を提供している。

地域社会連携講座「医療経営士養成プログラム」は、「株式会社大垣共立銀行と朝日大学との産学連携に関する基本協定」に基づく産学連携事業の一環として平成 30(2018)年から開講している。医療現場を経営の分野から支える人材を育成することを目的とし、学校教育法 105 条「履修証明プログラム」として医療経営に関する知識、実践的な技能を体系的に学ぶためのカリキュラムを編成している。令和 4(2022)年まで 5 年間継続して開講しており、これまでに 96 人の医療法人や社会福祉法人等に所属する社会人が受講した。

また、大学の近隣地域の住民を対象として、生涯にわたる学び、学び直しの機会を提供することを目的に令和元(2019)年からエクステンション・カレッジ(市民講座)を開講している。朝日大学 5 号館講義室及び地域の生涯学習拠点であるハートフルスクエアG(JR 岐阜駅隣接)の 2 会場において、簿記や英語、Web ページ作り、コミュニケーション技術といった実用的なものから、世界史や古文書、哲学、日本貨幣史など教養を深めるものなど幅広い分野にわたる講座を計画したところ、アクティブシニアや働きながら教養を深めたいと考える社会人など、幅広い年齢層から受講申し込みがあり、令和 5(2023)年 3 月現在でのべ 1,000 人の受講を受入れている。

そして、本大学英語担当教員と岐阜を拠点に活動するフリーアナウンサーのダブルパーソナリティによる地元密着型ラジオ番組「ちょっと E じかん」(岐阜放送 AM ラジオ、月 1 回土曜午後)を令和 3(2021)年 10 月から提供している。番組では、「岐阜から世界へ」をメインテーマとして、英語教育や国際交流などについての話題を提供しており、ゲストトーク、世界へ発信する岐阜の伝統や産業の紹介、「気持ちを伝える」英語レクチャーによる 3 コーナー構成で本大学学生によるコメント CM を盛り込みながら大学の様子を情報発信しており、地域社会に親しまれる、開かれた大学として地域に貢献している。

### 2. 新型コロナウイルス感染症に対する社会貢献

新型コロナウイルス感染症が発生した直後、本大学では岐阜県からの要請を受けて、令和 2(2020)年 4 月に朝日大学病院において専門病床 26 床を設置し、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れた。

新型コロナワクチン接種にいち早く取組み、東海地方では最も早く大学拠点接種を実施し、本大学学生、教職員だけでなく、穂積キャンパスが所在する瑞穂市内の小学校、中学校等教育機関の職員や県内連携企業、団体の社員等を対象として 3,995 人へのワクチン接種を行った。また、岐阜県が県内の医療系学生を対象として実施した新型コロナワクチン接種や県内連携企業における職域接種では、本大学の教員や医療職員、事務職員を派遣してその運営をサポートし、県内の新型コロナワクチン接種率向上に貢献した。これらで得たノウハウを活かして、その後も県内企業の職域接種について、申請段階から会場設営、実施に至るまで全面的に支援を行った。医科歯科医療センターでは、令和 4(2022)年 5 月から本大学学生、職員のみならず地域住民に対して、123 人にワクチン接種を行った。